

(平成28年6月21日)

第18回 赤松小三郎研究会のご報告

日時 : H28. 6. 21 (火) 18:30~20:30
場所 : 東京・文京シビックセンター 4F B会議室
出席者 : 21名

< 配布資料 >

- (資料1) 赤松小三郎研究会の研究課題等について(討議参考資料)~滝澤進さん作成
- (資料2) 「明治法制叢考」(小早川欣吾著、昭和20年12月発行)の一部抜粋
- (資料3) 赤松小三郎の「御改正口上書(建白七策)」と薩土盟約(発表資料)~関良基さん作成・・・ファイル添付あり
- (資料4) 幻の赤松小三郎の評伝を読もう---滝沢昌忠著「赤松小三郎私記」のすゝめ---
~宮原安春さん作成

↓ ↓ ↓

< 本の紹介 >

- 滝沢昌忠氏(48期)著「赤松小三郎私記」(コピー製本)
- 滝澤良忠氏(50期)著「八木剛助の背景」(コピー製本)

< 内容 >

1 事務局より

本日の特別参加者2名の紹介

- ★ 町田明広氏~神田外国語大学准教授、日本近現代史が専門で特に薩摩藩についてお詳しい
- ★ 本野敦彦氏~会社経営、松平忠固を主人公の時代劇の脚本をご執筆、映像化を検討中

2 赤松小三郎研究会の研究課題等について ~滝澤進さん(61期)発表

・これまでの赤松小三郎研究会の活動の主な成果として

- 1) 小三郎の知名度の向上
- 2) 小三郎研究の進展
- 3) 建白七策原本レプリカ
- 4) 盛岡藩史料における建白七策

などを挙げ、更に今後の研究の方向を定めるために、研究課題の抽出・整理と原典資料の確認を行った。

・この発表で、これまでの研究会における講演、発表を通して小三郎をめぐる研究課題として提起された諸点が見事に整理された。また、原典等で確認できたものはその原典を記し、今後の調査等が必要なものについても明確になった。

・また、資料の収集、解読等についても具体的に提示されており(例:①上田藩資

料、②小三郎自筆資料、③小三郎関係資料、④上田藩関係資料、等)、併せて古文書解読の必要性も改めて認識した。

3 赤松小三郎の「御改正口上書(建白七策)」と薩土盟約 ～関良基さん(86期)発表 (詳細は添付の発表資料を参照願います)

(1) 赤松小三郎と薩土盟約と土佐の大政奉還建白書の連続性について

★薩土盟約(慶応3年6月)

- ①行政府としての「朝廷」、立法府としての「議事堂」設置
- ②議事院の設立費用は諸侯より貢献
- ③議事院の上院は公卿と諸侯、下院は陪臣・庶民に至る普通選挙
- ④将軍辞職
- ⑤兵庫開港に際し、新たに朝廷が新条約を結び、開かれた通商を行う
- ⑥地球上のどこに持っていても恥ずかしくない新憲法の制定
- ⑦議員は、私心なく、公平な決定を行うこと

・赤松小三郎は、この一月前の慶応3年5月に薩摩・越前・幕府(桐野作人氏による盛岡藩の新史料発見)に「建白七策」を提出しており、次の大政奉還を始めとする新政府構想のたたき台として機能していた可能性が高い。

★大政奉還の建白書(慶応3年10月3日)

・土佐藩が単独で提出した「王政復古」構想。内容は上記薩土盟約から②④を除き、新たに学校設立と教育の振興に関する項目を加えたもの。

(2) 薩土盟約が破棄された背景

大政奉還建白書で④将軍辞職を除かれたこと、および土佐藩(窓口は後藤象二郎)が軍事協力しなかったこと、が倒幕に傾いた薩摩藩(西郷隆盛)から薩土盟約を破棄する大きな要因となった。

(3) 研究課題～「品川弥二郎日記」を解読する必要性

品川弥二郎は佐久間象山暗殺の実行グループの一味であることに疑う余地がない。品川は赤松小三郎暗殺にも関与している疑念がある。

以上

赤松小三郎研究会 事務局 荻原 貴(79期)